
ユーロビートをユーロたらしめる、エネルギッシュなシンセ音。

ダンスビート上を軽快に飛翔するそれは、熱き魂を駆り立てる音のハリケーン！

決まった呼び名がないので、トランスに多用されるシンセ音「SUPER SAW」にあやかり

EURO SAW (ユーロ・ソウ) という呼称を広めたいのですが、いかがでしょうか。

Euro Sawの作り方

おすすめするシンセ：2基以上のオシレーターを持つVAシンセ。ピッチにEGをかけられる機能が必須。デチューンがあればなお良し。

- ▶ オシレータは基本的に全てノコギリ波。わずかにピッチをずらしてデチューンする。1オクターブ高い音も足すと華やかになる。
- ▶ ピッチにEGをかける。打鍵後すぐにピッチが急降下するようにディケイを短く設定する。ピッチが降下する音がアタック音に聞こえるくらい。
- ▶ デチューンの具合はSuper Saw程にブレた厚い音にせず、ノコギリ波の芯を残して上品な程度にずらす。ノコギリ波のアルデンテヤー。
- ▶ 音の厚さや鋭さ、迫りに欠けると思ったら、シンセをもう一台レイヤーしてみましょ。設定パラメータを若干ずらすのがコツ。
- ▶ モジュレーションホイール等でヴィブラートをかけられるようにする。
- ▶ コンプでアタック音が目立つようにするとカッコいいかも。

Euro Sawの打ち込み

- ▶ とにかく歯切れよく！
- ▶ 躍動感ある打ち込みを心がけよう。ユーロにおいてシンセのモタつきは、曲の垢抜けなさ・稚拙さに直結します。

- ▶ Euro Sawは生き物です。ほんのわずかな音の長さの差でニュアンスが変わる繊細なもの、音符の長さは64分までこだわろう。
- ▶ 長めの音符にはヴィブラート。イメージとして『ハレ晴レユカイ』を聴いてみてください。
- ▶ フレーズによってシンセのEGを調整。連打するフレーズなんかは、アタック音のピッチ感がだらしく目立つことがあるので注意。
- ▶ 合いの手のようなアプローチも曲を盛り上げる。アクセントとなる箇所は、ギューン、とピッチバンドで降下させると良い感じ。

Euro Sawの音を聴いてみよう

Synth1で作ったEuro Saw, あくまで一例です。



1インスタンスのSynth1, 音の厚みとステレオ感を優先した音作りにしてみました。作曲の際には複数インスタンス立ち上げて、センター成分になるデチューン薄めの音などをレイヤーしたいと思います。



Osc1はノコギリ波をデチューン、サブOscで単純なノコギリを出力(音に芯を残すためにけっこう重要)。Osc2はデチューンつまみが無いので、ノコギリじゃなくPWMで厚みを出してみました。ピッチEGはOsc2にしか無いので、Osc2の音が優先的です。さらに厚みと広がりを出すためにコーラス・ユニゾンが強めにかけました。前述した通り高音成分を足すと音が華やかになるので、toneで少しハイにしてみました。(この辺はお好みで)

Native Instruments Massiveで作ったEuro Sawです。



Massiveを3台レイヤー、それぞれVoicingでUnisono値2のデチューン。

波形はSawtoothとGroan Iを使用、センターで鳴ってるMassive 1台以外は、うっすらリヴァーブかけてます。

=====